

■ 地域公共交通確保維持改善事業の第三者評価委員会の報告について

1 第三者評価委員会の目的

協議会等が、生活交通ネットワーク計画に位置づけられる補助対象事業について、事業状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことにより、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的に開催されます。評価については、学識経験者等からなる評価委員会により実施されます。

○評価委員会メンバー

【学識経験者】

伊豆原 浩二氏 愛知工業大学客員教授（座長）

加藤 博和氏 名古屋大学大学院准教授

【行政経験者（国）】

中部運輸局企画観光部長、中部運輸局鉄道部長、中部運輸局自動車交通部長、中部運輸局海事振興部長

2 第三者評価委員会の概要

- (1) 日 時：平成25年5月17日（金）午後4時30分～6時30分
- (2) 場 所：名古屋合同庁舎第1号館 11階大会議室
- (3) 出席者：企画政策課 蔵城係長、岡田係長、小出主査
- (4) 内 容：本市始め6協議会が、自己評価概要を説明したのち、各委員から評価をいただいた。

3 評価結果について

主な質疑応答は次のとおりです。

評価者からのご意見	ご意見に対する答弁
<p>「③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価」の中で、JR枇杷島駅の乗降者数が、若干増加しているが、増加の要因は何であると考えているか。</p> <p>平成24年7月のルート改正後に結果論として増えたのか、もしくは、ルート改正前に増やす意図があって必然的に増えたのか教えてほしい。</p>	<p>清須市内には鉄道駅が10駅存在していますが、どの駅も規模が小さく、整備が行き届いているとは言いがたい状況でした。</p> <p>しかし、近年、枇杷島駅が整備されましたので、平成24年7月のルート改正時には、市内の主要な駅として、枇杷島駅に人を集められるように、現行車より多くの利用者が乗車できる新型バスを導入したことが要因と考えられます。</p> <p>また、サクラルートについては、市内幹線道路を通るルートに改正したため、春日地区で清洲駅を利用していた方々は、あしがるバスを利用することにより、枇杷島駅への交通利便性が高まったため、清洲駅から枇杷島駅への利用に変化し、増加に繋がったのではないかと考えます。</p>

評価者からのご意見	ご意見に対する答弁
<p>「④自己評価から得られた課題とその対応」の中で、図書館利用者がコミュニティバスの利用につながっていないとあるが、図書館開館前に利用者増加につながる施策は行っていたのか。</p>	<p>合併前は、図書室が旧町単位で4室存在しておりました。今回新たに図書館が開館されたことにより、市内4箇所から1箇所に集中しましたので、必然的に、図書館への移動のニーズがあると考えました。</p> <p>また、新型バスを導入し、図書館開館前から市民に対してホームページ等でPRしていたので、多くの利用者を期待していましたが、思うようにはのびなかった次第です。</p>
<p>図書館の利用者ニーズを、事務局及び運行管理事業者側だけで把握するには限界があると思う。</p> <p>図書館利用者の詳細な交通状況については、図書館と連携し把握していかなければいけないと思うがいかがか。</p>	<p>図書館利用者のより詳細な交通状況について、随時、図書館から聞き取りを行い、利用者増加に繋がるようにしていきたいと考えております。</p>
<p>「⑤アピールポイント（特に工夫した点）」の中で、乗り継ぎの際には、運転手同士が無線を活用して発車時刻を調整するとあるが、調整した場合、待たされた側のバスの利用者からの苦情はないか。</p>	<p>平成24年7月のルート改正は、乗り継ぎを重視したルート改正としましたので、発車時刻を調整しているところです。</p> <p>苦情が全くないとはいえませんが、現状では、お待ちいただいている利用者の方々に対して、運行事業者が臨機応変に対応しておりますし、利用者の方々にもご理解いただいていると考えております。</p>